



災害現場で人の位置特定

キャリア技研

【岐阜】キャリア技研（名古屋市中村区、富田茂社長、052・627・0495）は、電動無線操縦ヘリコプターにカメラと全球測位システム（GPS）を搭載した災害探査システム「SARARS」を開発した。自社開発の3次元画像識別システムと組み合わせ、上空から撮影した人や物を認識し、その位置を知らせることができる。今秋をめどに災害対策用として自治体向けに販売する予定。

カメラ・GPS 無線ヘリに搭載

カメラを搭載した全長1.3秒間に4コマのスピードで撮り出しの電動無線操縦ヘリで、上空から地上の様子をリアルタイム送信する。ヘリに取り付けたGPSの情報をもとに、GPSと3次元画像識別システムを組み合わせ、受信した画像から人や物を探し出す場所が地図上のどこに当たる

今秋、自治体向け販売

かを細かく特定できる。さらに自社開発の3次元画像識別システム「CAV」を使い、あらかじめ人や物の形状を3次元データにして同社のサーバに登録しておくこと、受信した画像の中からその形状と同じものを探し出すことができる。

撮影角度によっては被写体の見え方が変化するが、CAVは事前に登録した3次元データから変化を予測できるため、撮影角度にかかわらず人や家屋、自動車といった対象を識別できるという。「災害現場に残された人を上空から見つけ、その位置を特定するのに役立つ」（富田社長）としている。システムの販売価格は1500万円程度になる見込み。